

# 育てたい資質・能力・態度の学校外部への説明

## ● 結果と考察

育てたい資質・能力・態度について、誰に向けて説明したか。（質問5）\*複数回答

### 児童生徒に対する説明は、小学校約7割、中学校約9割

学校としての育てたい資質・能力・態度についての説明では、

児童生徒（小学校69%、中学校91%）

保護者（小学校75%、中学校79%）

に対して行っている学校が多い（図18、19）。

小学校では、児童よりも保護者に対して説明した割合が高く、中学校では、保護者よりも生徒に対して説明した割合が高い。これは、発達段階を踏まえた指導や支援によるものと考えられ、中学校では、生徒に学習のねらいや意図をつかませて学習の動機付けを図ろうとしている様子が見られる。

一方、学校外部に対して説明している割合は、

外部協力者（小学校37%、中学校38%）

地域の人々（小学校25%、中学校29%）

他校の教師（小学校18%、中学校15%）

と少ない。

また、「説明はしていない」という学校も、

小学校15%、中学校3%

見られる（図18、19）。

学習内容によっては、外部の協力者や地域の人々に講師や調査活動の協力を依頼する場合もあり連携が必要になってくる。しかし、調査結果によると、学校からの情報発信が十分に行われておらず、学校外部との連携や共通理解が図られていない様子が見られる。また、学校間の情報交換についても同様の傾向が見られる。

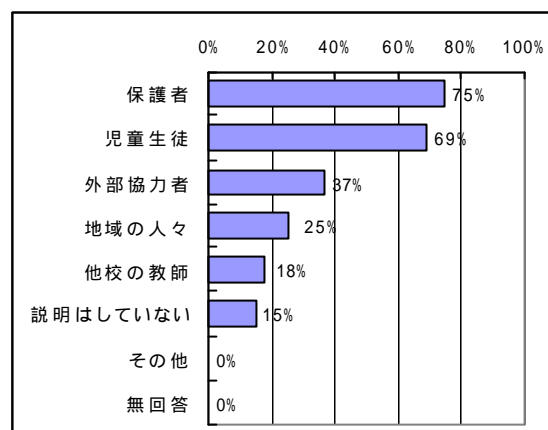


図18 育てたい資質・能力・態度の説明対象（小学校）複数回答

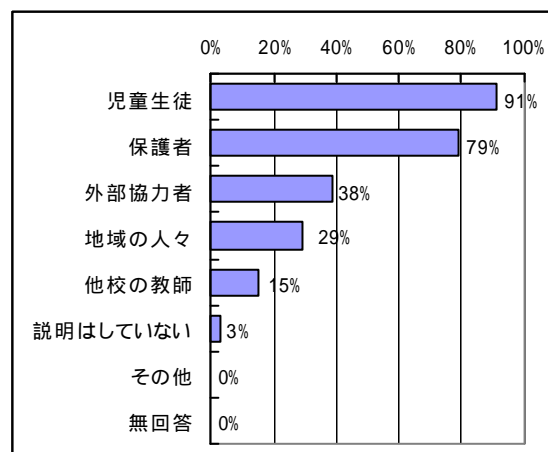


図19 育てたい資質・能力・態度の説明対象（中学校）複数回答

## ● 課題

学習のねらいや活動内容とともに育てたい資質・能力・態度について、学校としての方針を地域の人々や外部協力者にも伝える工夫をする。

自校の取組について、近隣の学校間で情報交換を行い、連携を図る。